

## 平成 30 年度 名古屋支部総会レポート

(「ごきそ」9-10月号投稿予定；青字はカット)

平成 30 年 6 月 23 日 (土) 午後、名工大 4 号館 1 階ホールにて名古屋支部総会が開催された。あいにくの雨の中だったが、総会出席者は 85 名だった。おかげさまで、計測会からは単科会中最多の 26 名の方に出席いただいた。

大鑄先生の司会で始まった、支部長大鹿の挨拶は、(1) 名古屋支部の特徴である、名工大に近い地の利を活かしたいこと (2) 大学との連携及び、単科会同士との連携を一層よくすること (3) 本部の支援を受けてこれまで以上に若手会員を意識すること など今年の「チームワーク」から、2 年目の今年は「つながり」を意識した所信表明だった。

来賓挨拶として、名古屋工業会加川純一理事長から、名古屋工業会の基盤整備と支部活動支援に引き続き取り組むこと。学生に対する海外研修・課外活動・就職活動支援さらに OG 会 (鶴桜会) へ支援すること。工業会の現状の 3 つの課題 ①工業会館の耐震化・建て替え検討 ②長期健全経営に向けた財政基盤強化 ③若手会員の参加 についてなどをご紹介いただいた。

続いて、鶴飼裕之学長 (F52) は大学改革に邁進してこられた 4 年を振り返りつつ、世界でも類が無い学部と院の 6 年一貫教育、応用研究はもちろん基礎研究にも注力して着々と成果を上げている実例を上げて、名工大が力強く前に進んでいることをご紹介いただいた。「工学教育のトップランナー」、「輝くノーベル賞候補の研究」、「着実に進む産学連携」などなど、我々卒業生が母校名工大を誇りに思える大変心強いご挨拶であった。

その後、大鑄史男先生 (F49) から平成 29 年支部事業と平成 30 年事業計画が、内藤隆先生 (FH1) から H29 年会計報告と平成 30 年予算計画が報告され、いくつかの質疑応答を経てそれぞれ承認された。本部と名古屋支部との関係についてなど貴重なご意見もあった。「東京支部大阪支部ほか他支部とも意見交換しつつ、名古屋支部会員が主役の支部運営に努め、来年度は計測会から経友会へスムーズに襷をつなぎたい」と会員に心で誓った。

約 10 分間の休憩の後、学生生活・教育改革推進担当の副学長犬塚信博先生から「新しい工学教育と名工大創造工学教育課程」と題したご講演をいただいた。大学改革の中心は教育改革であること、名工大における新しい工学教育の流れ

の方向性、及びどういった人材を育てるか、28年度教育組織改革、そして、名工大創造工学教育課程のこれまでの経過と今後などをわかりやすくご報告いただけました。講演内で紹介された生の声「大学1～3年生が退屈だった」というのもったいないことだし、「自分の意志でやりたいことを選択して」学ぶという6年一貫教育は、時代の流れに沿っていると、学生時代を振り返りながら思う。大学時代だけでなく、企業人になってもやりたいことをやれるというのは真の働き方改革ではないかな。会場からは講演中、名工大での英語の授業の割合、中学高校のプログラミング教育、AI時代の教育についての質問があり具体的な回答をいただいた。新しい工学教育に向けた名工大の取り組み課題について興味深く聴くことができた。



講演会 犬塚副学長「新しい工学教育と・・・」

会場を名工大から浩養園スターホール3Fに移しての懇親会は、内藤克己常務理事から、「工業会は異業種交流でもあり、単科会交流でもあるから一人でも新しい仲間をつくってほしい」などのお話があった。

出席者最年長の緑会山中様（D35）の乾杯音頭から始まり、あちらこちらで自由に話の花が咲いた。今年は昨年のように単科会からの一言ずつは、無かったが、単科会交流は進んだように思う。3月にスタートしたばかりの“名古屋支部運営のあるべき姿検討プロジェクト”についても色々なご意見を伺うことができた。中締めは理事・副学長の内匠逸先生と橋本忍連携室長に大学と同窓会のつながりなどのご挨拶をお願いして、支部長大鹿の3本締め失敗で大笑いの中、お開きとなった。



懇親会で守田会長（F47）の掛け声で、集まった計測会会員



懇親会浩養園スターホール会場の様子

計測会で H30 年度末まで名古屋工業会名古屋支部運営事務局を担当させていただきます。引き続きご支援をお願いするとともに計測会の応援をよろしくお願い申し上げます。

記：名古屋支部長 大鹿秀正（F47）